令和７年度　ふじえだ型ピア・サポート活動の取り組み

『 あたたかな心を実感する 仲間・心づくり』

藤枝市立瀬戸谷小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
４月	小中合同入学式 出会いの会 (児童会開き) 瀬戸谷ウォークラリー	学級で取り組むプログラム （人間関係づくりプログラムを活用） 【１年】 「クラスのメンバーを知ろう」 「だるまさんが〇〇をしよう」 「くまとあなぐら遊びをしよう」 「どんな気持ちかな」 【２年】 「あいさつゲーム」 「まちがえないで聴けるかな」 「いろいろ違って楽しいね」 「心の中の鬼をさがそう」 【３年】 「友達ってあったかいな」 「知らなかった〇〇さんのこんな一面」 「認めてもらえるってうれしいな 認めるって素敵だな」 「今のわたしの気持ちは何色？」 【４年】 「友達の好みを知ろう」 「上手に聴こう」 「上手に頼もう」 「自分の気持ち･みんなの気持ち」 【５年】 「自分のことを知ってもらおう」 「上手に話を聴けるかな」 「気持ちの伝え方を知ろう」 「自分の気持ち･みんなの気持ち」 【６年】 「似ているところを見つけよう」 「もっと上手に話を聴けるかな」 「気持ちの伝え方を知ろう」 「怒りの気持ち(カンカン)君と仲良くなろう」	職員会議 （ピア・サポート年間活動計画の共通理解）
５月	里帰り（中１） なかよし遊び 全校長縄集会		
６月	小中合同学活 里帰り（中２） なかよし遊び 小中合同避難所開設訓練		
７月	自然教室		
８月			
９月	体育祭 結団式 小中合同体育祭練習 里帰り（中３）		
１０月	全校体育祭練習 小中合同体育祭 体育祭 解団式 里帰り（中１）なかよし遊び せとやっこクラブ 修学旅行		
１１月	安全全校防災教育 全校合唱練習 校内音楽会 せとやっこクラブ		
１２月	稲葉小との交流会(各学年７月～12月) 小中合同学校保健委員会 全校長縄集会		
１月	体力アップコンテストへのチャレンジ なかよし遊び		教育課程編成会議 （今年度の振り返り、来年度の計画）
２月	６年生ありがとうの会 委員会引き継ぎ式 なかよしランチ 感謝の気持ちを伝えよう		
３月	なかよし遊び 卒業式 修了式		

【重点目標】「自分から行動『わくわく』を共に創り出す」取り組み

児童会スローガンを意識した取り組み（委員会・集会・あいさつの花等）

小中一貫教育の継続・深化・発展

地域とつながる生活科・総合的な学習の時間

１　本校のピア・サポート

瀬戸谷小中一貫学校教育目標「自立 共生 成長実感」の実現に向け、「自分から行動『わくわく』を共に創り出す」を重点目標とし、あたたかな心を実感する仲間・心づくりに向けた取り組みを行っている。学級の仲間だけでなく、小中を含めた縦のつながりや地域の方々と関わる活動を多く取り入れ、学校全体、地域全体で思いやりの心の育成に取り組んでいる。

２　本年度の取組

（１）授業において

研修テーマを「一人一人が学びを実感する」とし、こども同士の対話（思考を深めるためのこども同士の自然な語り合いや話し合い）を重視してきた。一方的に話したり聞いて終わったりするのではなく、話す・聞く双方向のやり取りを通して学びを深め、学びを実感できる授業を実践してきた。

（２）特徴的な活動

①　なかよし班活動　～１年生から６年生を５つの縦割りグループに分けて活動～

・なかよし遊び〈提言１、４、６〉

各学年が順番に遊びを考えることを通して、他者を思いやることにつながったと考える。遊びの最後に、企画した学年にお礼をするといったことを自分たちから進んで行っており、どの学年にとっても心の成長につながる活動となった。

・瀬戸谷ウォークラリー（遠足）〈提言１、４、６〉

なかよし班のメンバーでコースを相談したり、チェックポイントのミッションに挑戦したりしながら、学区のウォークラリーを楽しんだ。高学年は低学年に対して「あと少しだから頑張れ！」「車に気を付けて。」と低学年を思いやる姿が見られ、低学年はその声に応えようとする姿が見られた。

②　瀬戸谷らしい「小中一貫教育」の実践

・小中合同体育祭〈提言１、４、６、８〉

児童会や生徒会が中心となり、主体的に準備や練習に取り組んだ。練習では、中学生が小学生に競技の説明をしたり、作戦を伝えする姿や、高学年の子が先頭に立って応援をし、仲間を支えようとする姿がみられた。解団式では、児童会・生徒会から、団のために頑張っていた子(各学年１人)に「セピア賞」が贈られた。

・里帰り〈提言１、４、８〉

中学生が小学校に来て、１時間目から昼休みまで小学生と一緒に生活する「里帰り」が行われ、中学生の授業に小学校の職員が入って支援をした。本年度は、新たな試みとして、小学校職員が、T1 として中学生に授業を行うことも行われ、小中の職員が、こどもたち全員をより深く理解、支援することにつなげた。またお昼は、中学生が各教室へ行き、小学生と楽しく会話をしながら食事をした。昼休みには一緒に遊んだり長縄をしたりして瀬戸谷小中が一体となってあたたかな関わりをもつことができた。

③　地域とのつながり

・総合的な学習の時間や生活科の学習〈提言４、８〉

地域の文化や産業、様々な方面の方々の協力を得て学習活動を行っている。地域の方々も、瀬戸谷のこどもたちを大切に育てていこうという思いをもって活動に協力してくださっている。こどもたちは、地域の方々と一緒に活動することで、地域のあたたかな心に触れ、感謝の心を地域に伝えている。

３　本年度の成果と来年度に向けて

○小規模校の特性を生かし、なかよし班、小中が連携した教育活動等、こども同士だけでなく、瀬戸谷地域一体となってかかわり合うあたたかな雰囲気、環境がつくられている。

●集団の中で発言したり、自分の思いを語ったりすることに苦手さを感じている子もいる。授業や生活の中で、どの子も安心して自分の思いを語り、表現できるよう「ピア・サポート」という言葉を広めながら、計画的に活動を行い、成果を積み上げていく必要がある。